世界かんがい施設遺産

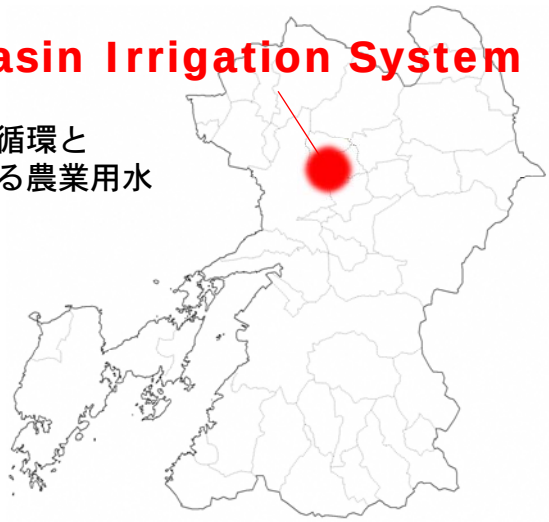
しらかわりゅういきかんがいようすいぐん

白川流域 かんがい用水群

［熊本県・熊本市・菊陽町・大津町］

Shirakawa basin Irrigation System

くまもと地域の水循環と
街を支える農業用水



■ 約400年前、加藤清正や歴代細川家の手によって「上井手用水」、「下井手用水」、「馬場楠井手用水」、「渡鹿用水」が築造され、約1,800haの新田が生まれた。

■ 流況が不安定な白川流域において、利水（平常時の効率的な用水取水）と治水（洪水流量の排水）を両立させるため、「斜め堰」が設けられた（渡鹿用水に現存する）。

■ 用水群の築造と新田開発により大規模な地下水の流れを伴う地域水循環が形成された。白川中流域の水田で涵養される地下水資源は、熊本地域の約100万人の生活を支えている。

■ 当時の最先端技術によるこれら施設は、地域の自主的な維持管理もあって、度重なる災害にもかかわらず、機能を失うことなく現在も利用されている。

土砂堆積抑制の機能を持つ「鼻ぐり井手」（馬場楠井手用水）

上井手堰

下井手用水路

熊本河川国道事務所提供
（令和元年6月撮影）

「斜め堰」の渡鹿堰

平成28年（2016年）の熊本地震により
被災した用水路（上井手用水）

問い合わせ先　おおきく土地改良区　TEL. 096-293-6851